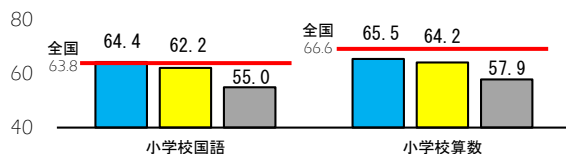
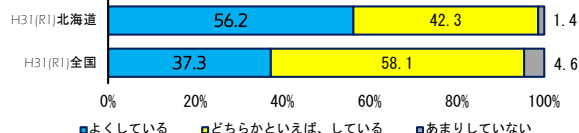


(2)検証改善サイクルの確立

【分析】

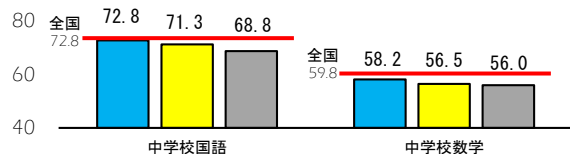
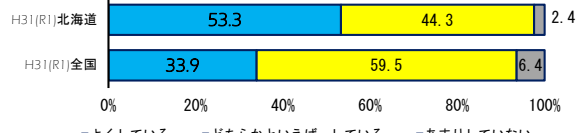
「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」（学校質問紙）

小学校



〔学校質問紙と学力のクロス分析〕

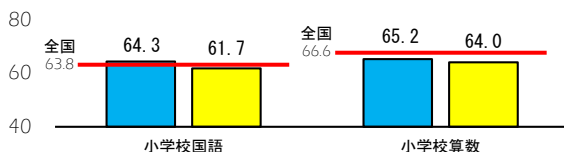
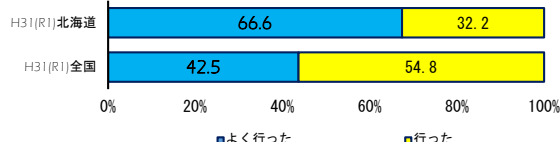
中学校



〔学校質問紙と学力のクロス分析〕

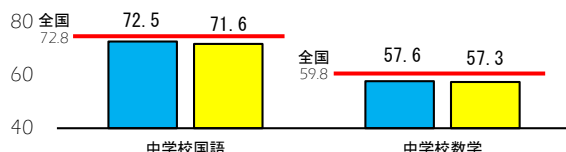
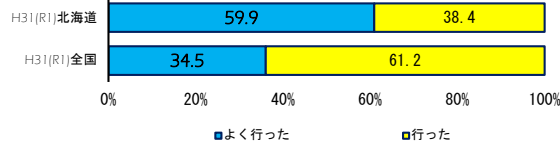
「平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果〔結果〕について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」（学校質問紙）

小学校



〔学校質問紙と学力のクロス分析〕

中学校



〔学校質問紙と学力のクロス分析〕

- 各種データ等に基づいた検証改善サイクルの確立や調査の分析結果を活用した学校全体での教育活動の改善など、検証改善サイクルの確立に関する項目について、「よくしている」「よく行った」と回答した学校の割合が全国を上回るなど、取組が推進されている学校が多い状況が見られる。
- 検証改善サイクルの確立に関する項目について、「よくしている」「よく行った」と回答した学校においても、教科の平均正答率が全国を下回っている状況が見られるなど、検証改善サイクルの取組の質の向上を図る必要がある。

【改善の方向性】

- ◆ 検証改善サイクルの取組の質の向上を図るため、分析ツール北海道版やS-P表（学校や学級別の児童生徒の解答状況を表に整理したもの）等を効果的に活用し、児童生徒のつまずきや教育課程の改善点等をより明確にすることが大切です。また、児童生徒のつまずきや教育課程改善点等を踏まえて必要な取組を焦点化し、全教職員の共通理解の下、教育課程の改善を組織的に進めることが大切です。



分析ツールの効果的な活用

ポイント

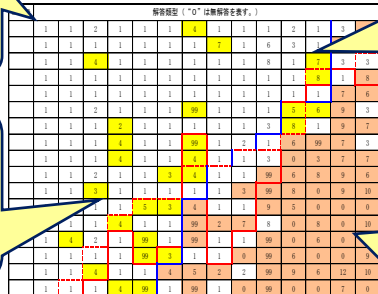
誤答の傾向をS-P表（学校や学級別の児童生徒の解答状況を表に整理したもの）で分析し、子どものつまずきや教育課程の改善点を明確化しています。

1 S-P表による分析

※S-P表とは、縦と横がそれぞれ児童生徒（S：Student）と設問（P：Problem）の正答数の多い順に並べ替えた表の中に、S曲線（青）とP曲線（赤）を書き入れたものであり、学校や学級全体の課題の傾向や、個々の児童生徒が理解していない可能性が高い設問を見つけ出すことができる。

解答類型を基に、子どもの誤答の状況を詳細に分析

同様の誤答をする子どもが多い問題を調べ、集団としてのつまずきを分析



S曲線より左側にある誤答を調べ、容易に克服できる可能性の高い問題を分析

S曲線より右側にある誤答を調べ、理解されていない可能性が高い問題を分析

分析を基に、

- ・授業や放課後の学習サポート等で重点的に指導する学習内容を検討
- ・これまでの指導方法等を振り返り、改善点を明確化

2 全教職員による子どものつまずきの共有

- ・全教職員が分析に関わることができるように、分析する箇所を分担
- ・分担ごとに分析した内容を持ち寄って協議し、子どものつまずきを共有

- S-P表や解答類型を使って子どもたちの誤答の傾向を詳細に分析することにより、課題の見られた学習内容等についての今後の指導の方向性を明確にすることができた。
- 全教職員で分析を行ったことにより、子どものつまずきや改善の方策についての共通理解が図られ、子どもたちの学力向上に向け、組織的に取り組むことができるようになった。

取組の焦点化による組織的な授業改善の推進

ポイント

課題を踏まえて取組の重点を設定するとともに、全教職員で取組の改善を図っています。

1 調査結果の分析を基に、授業改善の重点を検討

- ・調査結果から、説明する学習活動や学習規律に課題があることを分析
- ・子どもの学び方の改善や学習規律の指導の徹底が必要なことを全教職員で共有

2 授業改善の重点を学校全体で共有

- ・学び方や学習規律を身に付けた子どもの姿を掲示物で視覚化し、全教職員だけではなく、子どもたちと共有

3 取組状況を短期間で共有し、改善を検討

- ・指導が徹底されているかを定期的に情報交流したり、授業での子どもの姿で確認し合ったりしながら、取組を改善

まなびの見えるおし	①あいさつ ・「はじめます」 ②きょうの「かだい」 ・なにをかんがえるの？ ③異とおし ・どうすればできそうかな？
ことばでつたえる	④ひとりタイム ・じぶんのちからでやってみよう ⑤なかまタイム ・ペアやグループでそうだんしてみよう ⑥ぜんいんタイム ・みんなにかんがえをつたえよう
ともにみかめる	⑦きょうの「まとめ」 ・1じかんてまなんだことをどうまとめよう ⑧ふりかえり ・まなんだことをいかしてかこう ⑨あいさつ ・「おわります」

「学びあい」のやくそく

「ぜんいんがわかるまで」考えましょう。

- ①じぶんでしっかりかんがえます。
- ②わからないときはききます。たずねます。
- ③かんがえたことをわかりやすくつたえます。
- ④みんながわかるまであきらめません。

「話す」やくそく

「つたわるように」はなしましょう。

友だちの考えをききたいとき「〇〇さんは、どう思いますか？」

りゆうを話すとき「なぜなら～からです。」

かんがえを話すとき「～です。」「わたしは～だと思います。」「話しはじめるとき「きいてください。」「友だちの顔を見て、さいごまではっきり話します。」

【学習規律や学び方を示した掲示物（一部抜粋）】

- 子どもの姿を基に取組状況の共有と改善を繰り返したことにより、教職員の参画意識が向上し、学校全体がチームとなって学校改善を推進することができた。
- 学び方の改善や学習規律の指導の徹底に学校全体で取り組んだことにより、多くの場面で主体的に学習に取り組む子どもの姿が見られるようになった。